

PC設計NEWS



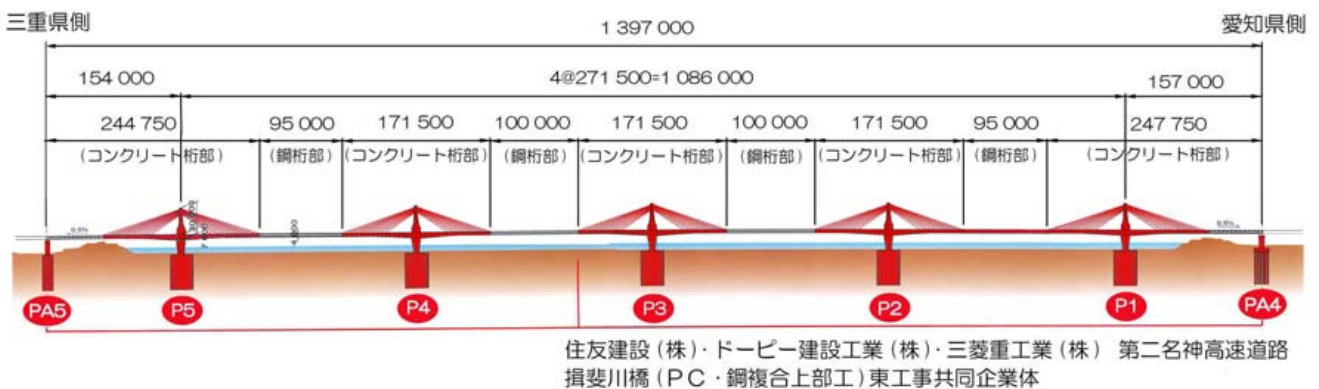
いびがわばし
揖斐川橋(その3)

進捗状況

平成12年10月29日、P1橋脚とP2橋脚間に約20,000kNの鋼桁大ブロックの架設を行いました。残り的大ブロックも順次架設し、平成13年1月29日に鋼桁架設を終了する予定です。

一方、セグメントの製作は、平成12年6月末に105個すべてを終了しています。各橋脚からの張出し架設もすべて終了し、側径間の施工を行っています(平成12年12月時点)。

一般図(施工終了部分を赤色で表示)



施工状況



側径間の逆張り出し施工(コアセグメント)



設計概要

1) 鋼桁の架設

本橋の側径間をのぞく各径間中央部には、自重の低減のため、約100(m)の鋼桁部を設けています。この鋼桁部は、大ブロックの一括吊り上げ架設工法を採用しています。

鋼桁部は工場で作製され、海上を台船にて輸送、張出し施工部先端に設置された反力桁により吊り上げ、所定の位置に架設します。

架設時の温度変化等により、不静定力を発生させないため、架設直後は鋼桁端部とコンクリート部をピン結合とし、すべての鋼桁を架設後に一括して剛結します。

2) 接合部の構造

コンクリート桁部と鋼桁部の接合部は、鋼桁の内部にコンクリートを打設し、一体化を図った構造となっています。鋼桁内部に打設するコンクリートは、閉塞空間内に確実に充填される必要があったため、収縮低減型の高流動コンクリートを使用しています。

3) 側径間の施工

側径間の下には、摺斐川の堤防があるため、プレキャストセグメントを輸送できません。このため、端部から77(m)は、現場打ちの逆張り出し施工を採用しています。

逆張り出し部は、断面を3つに分割し、はじめに中央部、続いて両サイドを場所打ちにて施工しています。

鋼桁一括吊上げ

